

衣川地区振興会だより

新春号

令和8年1月8日発行



衣川地区振興会
会長
高橋 厚

感謝とお礼、
そして「すりこ木」の心

明けましておめでとうございます。
皆さまには穏やかな新年を迎えたこととお慶び申し上げます。

さて、衣川中学校では「地域再生プロジェクト」が今年度で3年目を迎えました。これまで史跡一首坂への花菖蒲植栽やベンチ設置、セミナーハウス看板設置、ポケットパークや郵便ポストの模様替え、百年残した衣川の景観等々、生徒目線での発案と企画は、どれも斬新で、地域貢献につながる内容であつたと感じています。

こうした一連の活動を見るにつけ、改めて子どもたちこそ「衣川の宝」「元気創造の基」を感じた1年でした。いずれ、子どもたちは社会に巣立つていくことになりますが、一人でも多く衣川に住み、或いは衣川に戻ってきてくることを願わざるを得ません。



▲衣川中学校1年生19人が、12月17日（水）衣川郵便局を訪れ装飾しました。



豊富な水を蓄えてくれることを期待したいと思います。今年一年皆様にとつて穏やかな年であつたつての挨拶といったします。

「昭和は遠くなりにけり」とは云うものの、便り、遺品、数多くの資料や写真等を観るにつけ、人々の村づくりへのエネルギーや命の尊さを改めて感じさせられ、目頭を熱くしたのは私だけではなかつたのではないでしょうか。

こうした振興会事業には、多くの皆様に積極的な協力をいたしました。そのことで多くの皆様の心を動かすことができたと思

う年でした。
大正期から戦前・戦中・戦後の衣川に関する2回の企画展は、多くの方々から資料の提供をいたさず、意義ある展示会になつたと思つております。

過日、ある先輩から「すりこ木」の精神についてのお話を受け、改めて意を新たにしたところです。

「身を削つて人様に役立つすりこ木の心を知れ！」など。

会長としては今だその域に達していませんが、その精神で振興会の根本に意を向け、今年も事業展開していく所存です。

昨年は、猛暑による水不足などが目立つた年でした。増沢ダムも例外ではありませんでしたが、番水制度で無事乗り切つたようですが、今年も、猛暑予報が出ており心配されますが、あの広大な森が